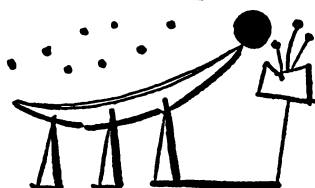


論文誌梗概



(Vol. 30 No. 10)

■ スペルベルの象徴解釈モデルに基づく隠喩の検出

土井 晃一, 田中 英彦 (東京大学)

自然言語処理に止まらず, 自然言語理解を計算機上で行うためには, 現在談話理解として盛んに研究されている象徴と指示関係の理解が必要である. そのほかにも, 単語のニュアンスの問題を含んだ単語の使い方, 言内の意味を越えた言外の意味の解析, 発話を取り巻く環境を表すその場の状況理解, 文脈理解, 話者の認識の仕方の解析等の問題点がある. これらを扱うアプローチの一つとして, 隠喩理解がある. 我々は, 隠喩理解を行う第一段階として隠喩の検出を計算機によって機械的に行う. 隠喩の検出には, スペルベルの象徴解釈モデルを用いる. 隠喩検出の基準としては, 明らかに偽な場合, 不条理な場合, 有意性を欠く場合の三つに分けて取り扱う. 実装システムでは観念的なことを扱うために意味ネットワークを用い, 実在的なことを扱うために状況意味論を用いた. また計算機上での実装は Prolog で行った. 本論文では, 計算機上での隠喩検出に必要なデータ構造と, その検出の仕方について述べる. さらにその検出の範囲についても言及する.

■ ニューラルネットワークの情報表現と非線形関数の同定

生天目 章, 木俣 康之 (防衛大学校)

非線形の連続写像として表現されるアナログパターン情報をニューラルネットワークに学習させるための表現モデルについて考察する. 非線形な入出力関係を逆伝播法を用いて多層型ネットワークに学習させる場合, その情報表現法によりいくつかのネットワークアーキテクチャが考えられる. 多層型ネットワークによる学習の般化能力は, そのネットワークのアーキテクチャに依存することを明らかにする. 入出力関係全体の状態空間を細分化しそれぞれの部分空間に入力素子に対応させる方法や入力変数に一つの入力素子に対

応させる従来の方法では, 非線形な入出力関係について学習させることはできないことを示す. これらの方法に代わる新しい表現モデルとして, いくつかの高次関数を入力素子としてもつ高次関数表現モデルを提案する. 本表現モデルによる多層型ネットワーク学習により, 一般に数式として明示することが困難な入出力関係の背景にある非線形な構造について数少ない学習例を用いてネットワーク上に学習 (同定) できることを示す.

■ 手書数字認識における階層型ニューラルネットワークの中間層に関する考察

立石 雅彦, 山崎 晴明 (沖電気工業(株))

階層型ニューラルネットワークによる手書数字認識システムを試作し, 中間層の機能を考察した. 階層型ニューラルネットワークによる文字認識に関しては多くの研究があり, 認識率を上げるための様々な手法が提案されている. しかし認識に重要な機能を果たす中間ユニットそのものについては十分な議論がなされていない. 一般にニューラルネットワークは, 学習によって獲得した知識を中間層に蓄えると考えられており, 中間層の解析は文字認識のしくみを解明する上で重要である. 本稿ではニューラルネットワークのシミュレーション結果について述べた後, 中間層の役割, および中間ユニットが持つべき重み分布について説明する. また, ニューラルネットワークの冗長度を少なくすることにより, 中間層に望ましい重み分布を学習させることが可能であることを示す.

■ 密結合マルチプロセッサ上での FGHC 処理系の実現

松田 秀雄 (神戸大学)

石田 英雄 (松下電器産業(株))

金田悠紀夫, 前川 禎男 (神戸大学)

本論文では密結合マルチプロセッサシステム Symmetry 上での FGHC 処理系の実現について述べている. FGHC のプログラムを C プログラムの形をした中間コードを介してコンパイルする. 中間コードは WAM を FGHC の並列実行用に拡張した中間言語命令から成っている. クイーン, 素数生成, クイックソートを実行しそれらの実行時間を測定した. その結果, 問題によってサスペンドの発生頻度と回数がかなり異なり, それが台数効果に影響していることがわかった. このことは FGHC では単純に並列度を上げるだけでなく, サスペンドを抑える何らかの方法がないと並列実行の効果が得られにくいことを示している.

本処理系ではまた、ヒープのガーベジコレクションを印付け法を並列に行う方式で実現した。これによりガーベジコレクションの処理時間はプロセッサ8台の時の9クイーンで1台の時と比べ約1/5に短縮された。また、回収できた領域は9クイーンで約70%、素数生成では99%にものぼった。以上のことから、本処理系のガーベジコレクションの手法が有効であることが示された。

■ 3次元形状モデリングにおける立体集合演算の並列処理方式

中島 康彦 (富士通(株))

新實 治男, 柴山 潔 (京都大学)

萩原 宏 (")

3次元形状のモデリング過程は、形状定義と図形表示の2つの処理からなる。本論文では、形状定義処理のうち、最も計算量の多い立体集合演算について、処理を高速化するための並列処理アルゴリズム、およびこれを効率よく実行する並列プロセッサ・システムの構成方式を提案する。本システムでは、立体を構成する面どうしの交差計算および交線生成に要する処理時間が全処理時間の大部分を占めることに注目し、この処理を重点的に並列化することによって集合演算の高速化を図っている。また、全体のスループットの向上のためには、全プロセッサに対する立体データのブローキャスト、処理結果の回収、立体の再構成といった処理を、相対的に短い時間で行う必要がある。そこで、これらの処理にともなうデータ転送を必要最小限に抑えるため、 2^N 個のプロセッサを2分木状に接続し、プロセッサ間で最大 N 個のメモリを共有するとともに、すべての処理段階において、プロセッサ間でのメモリ・アクセス競合が起り得ないようにした結合ネットワーク構造、および並列処理方式を、新たに提案する。そして、ソフトウェア・シミュレーションにより、1)本システムの並列処理方式が極めて有効であること；2)一定誤差の補償を含んだ浮動小数点数の比較演算、および3次元ベクトルのスカラ積・ベクトル積計算の専用ハードウェア化が性能向上に大きく貢献すること；を明らかにする。

■ 実時間パターン照合によるデータ圧縮の高性能実用算法

横尾 英俊 (群馬大学)

実時間データ圧縮用のふたつの高性能実用算法を提案する。ともに、既に実用化されているデータ圧縮法の中で最も定評のあるLZW法の圧縮力を改善した

もので、入力記号列上のパターン照合による入力済み記号列の参照に基礎を置いている。LZW法では、入力済み記号列を分解して変換表に登録し、それを参照して新たな入力の符合化を行うが、本論文では、変換表が成長するに従って、圧縮力が向上する事実に着目している。提案する算法の顕著な特長は、変換表成長のオーダを上げていくにもかかわらず、圧縮速度のオーダをLZW法と同じ線形時間に抑えた点にある。種々のファイルに対する圧縮実験の結果、提案した算法の圧縮力は、従来のいくつかの標準的な手法のそれを多くの場合で上回ることが確認できる。提案した算法は、ファイル圧縮のほか、ネットワーク通信におけるデータ伝送の高速化にも有効であると思われる。

■ 基本関係データベース演算による自然言語表現の変換

上林 弥彦, 天野 浩文 (九州大学)

一般利用者にとってより使いやすいデータベースシステムを実現するため、形式的な質問言語で書かれた質問をその意味に対応する自然言語表現に変換する方法について考察した。この問題は、質問作成支援システムのほか、自然言語によるデータベース質問の処理にも応用できる。本稿で述べる方式は、自然言語を扱うための複雑な処理を避けるため、制限された英文の集合に単純な文字列操作を施すことにより、質問の解となるデータの意味に対応する表現を得るものである。そのため、主として、この英文集合の満たすべき構文上の制限と、これらの英文の質問に応じた変換法とについて検討した。本稿では、関係代数の基本的な3つの演算(選択・射影・結合)を扱う。いくつかの表を結び付け(結合)、それによってできた表からある条件を満たす組を選び出し(選択)、必要な列を切り出す(射影)という質問に対して、用意された文集合から選び出された表現集合を連結して、それらに修飾語句を加え、出力の部分強調する、という処理を提案する。この方法で生成される表現によれば、元の関係がどのような操作を受けるかを推定するのも容易である。さらに、上記の出力文に関する考察から、質問の構造との明確な対応をもつ単純な表現が作りにくいような質問のクラスが存在することも示す。

■ 図的思考支援を目的とした複合グラフの階層的描画法について

三末 和男, 杉山 公造 (富士通(株))

人間の発想活動の支援を目的とする発想支援系においては、断片的情報群の整理・組織化のための高度で

かつ柔軟な機能を持つマン・マシン・インタフェースが重要である。そのなかでも特に、図的機能が不可欠であり、情報の関連構造を可読性に富んだ図として直接的に人間に提示し発想を刺激するような機能を持たせることが望ましい。本稿では、KJ 法に代表されるカードを用いた発想技法を図的思考展開の方法として捉え、それを計算機により支援するための基礎技法の一つとして、カード間の包含関係と隣接関係を持つ図(数学的には複合グラフとして抽象化される)の可読性基準による自動描画法について述べる。本描画法は、LSI 配線のように物理的なレイアウトを求めるのではなく、情報構造やモデル構造などの概念の表現や伝達を主な目的とするもので、ごく基本的な図的要素と配置に着目し、階層的な配置を行うことを特色とする。本稿は描画問題に対するアルゴリズムを中心に述べるものであるが、それらはカード間の隣接関係だけからなる有向グラフの階層的描画法の拡張であり、基本的な考え方もそれを踏まえている。

■ シミュレーション・システムとしてのスプレッド・シートの機能拡張

金井 直樹 (日本 IBM(株))

スプレッド・シート・プログラムは非常に便利なツールとして広く世の中に受け入れられている。しかも、多くの場合、単なる集計用ツールとしてではなく、将来を予測するためのシミュレーション・システムとして用いられている。ただし、スプレッド・シートは、本来、集計用ツールとして開発されたため、シミュレーション・システムとしては問題点がある。それは、セル間の依存関係を関数という形式で暗黙的にしか表現できないことである。この結果、現在のスプレッド・シートでは、一方向の再計算機能しか実現できない。我々は、この問題に対処し、スプレッド・シートをより強力なシミュレーション・システムとするための機能拡張として、モデル化手段としてセルとセル間に成り立つ関係を用い、関係中にセル間の依存関係を伝搬制約として明示的に表現すること、および、すべての伝搬制約を満たしながら再計算を実行する双方向再計算機構を提案した。この拡張されたスプレッド・シートが提供するモデル化手段と双方向再計算機能により、スプレッド・シートはより強力なシミュレーション・システムとなると期待される。また、双方向再計算を実現する本手法は、スプレッド・シート特有のものではなく、伝搬制約という制約を考慮した場合の制約伝搬問題に対する一解答を与えていると考えられる。

■ 顔写真への個人情報の埋め込みによる人事記録管理システム

早迫 亮一, 中村 康弘 (防衛大学校)

松井甲子雄 (")

この論文では、企業等の人事管理部門において社員の人事記録をコンピュータ管理する際に、顔写真とその人物の個人レコードがそれぞれ分離されて保管されている現状を改善するために、顔写真の中に個人レコードを埋め込み、一括管理する手法とその試作システムを述べる。このシステムでは、顔写真のもつ冗長度を利用し、個人レコードをビット系列として写真中に埋め込み1個のファイルに保管する。これを利用する際には、この顔写真から個人情報を復号し、ソフトコピーやハードコピーを取得することができる。取扱者以外の第三者がこのファイルを無許可でのぞいた場合顔写真のみが表示され、個人情報を読むことができない。また顔写真と人事記録を別々に蓄積するより文字情報分のデータ圧縮を可能とし、1個のファイルを扱うためその管理も容易になる利点がある。試作システムでは顔写真データを8K バイトに限定して、約1.4K バイトの文字情報を埋め込むことができたが、これで個人レコード分として十分であろうと考える。

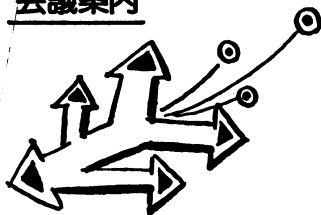
〈ショートノート〉

■ YAPX の効率的実現法

林 達也 ((株)富士通研究所)

筆者は先に、論理型言語による構型下降方式の構文解析法 YAPX およびその拡張系 YAPX について述べた。そこでは主として、機能的特長と実現のための基本的なメカニズムならびに時間・空間上の原理的能率に重点を置いて考察した。本稿では、YAPX が持っている時間的・空間的能率に関する高い原理的能力を現実のものとする効率的な実現法について述べる。本手法のポイントは、解析スタックへの格納要素を位置集合(リスト型データ)でなく核位置(アトム)とすることである。核位置とは、位置集合において、他のすべての要素を最左導出する要素のことである。これにより、大幅な速度向上と記憶容量の削減を計ることができる。またこれにともない、ホーン節の第1引数(入力解析スタックの先頭要素)は不要となる。同時に、ホーン節を左端、中間、右端のタイプ別にグループ化する必要もなく、効率上さらに有利となる。

会議案内



各会議末のコードは、整理番号です (*: 本年既掲載分, **: 昨年既掲載分)。会議の詳細を知りたい方は、学会事務局へ切手 72 円を同封のうえ、請求ください。(国内連絡先が記載されている場合は除く。)

1. 開催日, 2. 場所, 3. 連絡, 問合せ先, 4. その他

国際会議

国際ベンチャービジネスコンベンション (062)

1. 1989年11月6日(月)~11月13日(月)
2. かながわサイエンスパーク(川崎市高津区)
3. (株)ケイエスピー内 IVEC 実行委員会事務局
Tel. 044 (812) 2800

CHI '90—Conf. on Human Factors in Computing Systems (*028)

1. April 1-5, 1990
2. Seattle, Washington, USA
3. 主催: ACM-SIGCHI
問合せ先: Toni MacHaffie, CHI '90, P.O. Box 5847,
Beaverton, OR 97006-5847, U.S.A.

Eurographics Workshop on Object Oriented Graphics (063)

1. June 6-8, 1990
2. Federal Republic of Germany
3. 113 文京区本郷 7-3-1 東京大学工学部精密機械工学科
富山 哲男 Tel. 03 (812) 2111 (内 6454)
4. 論文締切: January 31, 1990

ICS 1990—The 4th Int'l. Conf. on Supercomputing (064)

1. 1990年6月11日~15日
2. アムステルダム (オランダ)
3. 主催: ACM—SIGARCH
論文提出先: 169 東京都新宿区大久保 3-4-1
早稲田大学 村岡 洋一 Tel. 03 (203) 4141
4. 論文締切: 1990年1月10日

Int'l. Conf. on Fuzzy Logic & Neural Networks (065)

1. 1990年7月20日~24日
2. 福岡県飯塚市

3. 主催: (財) ファジィシステム研究所, 国際ファジィシステム学会 (予定)
申込先: 820 飯塚市大字川津 680-4
九州工業大学情報工学部 山川 烈
Tel. 0948 (28) 5551 (内 401)

TKE '90-2nd Int'l. Congress Terminology and Knowledge Engineering Applications (066)

1. October 2-4, 1990
2. Trier, FRG
3. 論文送付先: Gesellschaft für Terminologie und Wissenstransfer e. V. TKE '90 Universität Trier
Postfach 3825, D-5500 Trier
4. アブストラクト締切: November 30, 1989

Int'l. Conf. on Multimedia Information Systems (067)

1. January 16-18, 1991
2. Singapore
3. 論文提出先: Desai Narasimhalu Institute of Systems Science National University of Singapore
Heng Mui Keng Terrace, Singapore 0511
4. 論文締切: April 10, 1990

国内会議

第8回 技術発表会

1. 平成元年10月23日(月)
2. 虎ノ門パストラル (東京都港区虎ノ門)
3. 情報処理振興事業協会 Tel. 03 (437) 2301

理化学研究所 第12回 科学講演会

1. 平成元年10月24日(火)
2. 富山県民会館 (富山市新総曲輪)
3. 理化学研究所 開発調査室
Tel. 0484 (62) 1111 (内 2743~2745)
4. 入場無料

第18回 MEDIS-DC 講演会「世界における医療情報システムの展望」

1. 平成元年10月27日(金)
2. 新霞が関ビル (東京都千代田区霞が関)
3. (財)医療情報システム開発センター 総務部
Tel. 03 (586) 6321 (内 35, 36)
4. 参加費: 10,000 円

システム制御情報チュートリアル講座 '89「制御工学へのガイド・ライン」—最新の理論のプロファイルと適用の実例—

1. 2. 大阪: 1989年11月2日(木), 10日(金), 13日(月), 22日(水), 12月1日(金)
なにわ会館 (大阪市天王寺区)
東京: 1990年1月11日(木), 12日(金), 17日(水), 19日(金), 26日(金)
ダイヤモンド社 (千代田区)
3. システム制御情報学会 チュートリアル講座 '89 係
Tel. 075 (751) 6413
4. 聴講料: 会員 45,000 円, 学生 20,000 円, 非会員 60,000 円 (全日)

講習会「HDTV（ハイビジョン）」

1. 1989年11月9日（木）～10日（金）
2. 機械振興会館（東京都港区芝公園）
3. （社）テレビジョン学会 講習会係
Tel. 03 (432) 4677
4. 参加費：正会員 27,000 円，学生会員 13,500 円，
非会員 37,000 円

第1回 画像入力シンポジウム

1. 1989年11月13日（月）
2. 東京大学生産技術研究所（港区六本木）
3. （社）テレビジョン学会 Tel. 03 (432) 4677
4. 参加費：会員 6,000 円，学生 3,000 円，非会員 8,000 円

日本学術会議研連フォーラム「長寿社会を支援する医用・福祉工学」

1. 平成元年11月24日（金）
2. 日本学術会議講堂（東京都港区六本木）
3. 主催：日本学術会議第5部医学生体工学研究連絡委員会
問合せ先：東京大学医学部医用電子研究施設
委員長 斎藤 正男 Tel. 03 (812) 2111（内 3563）
4. 詳細は本号日本学術会議だより参照

第2回 ゆらぎ現象研究会

1. 1989年11月25日（土）～26日（日）
2. セミナープラザすずかけ台（東京都町田市南つくし野）
3. 東京工業大学総合理工学研究科武者研究室内 ゆらぎ現象研究会事務局 Tel. 045 (922) 1111（内 2546, 2568）
4. 参加費：1,000 円

日本機械学会特別講演会「感性の計測」

1. 平成元年12月1日（金）
2. 食糧会館（東京都千代田区麹町）

3. （社）日本機械学会 計測・自動制御委員会
Tel. 03 (379) 6781
4. 参加料：会員 1,000 円，学生無料，非会員 3,000 円

セミナー「画像処理の基礎と応用」

1. 1989年12月19日（火）～21日（木）
2. 機械振興会館（東京都港区芝公園）
3. （社）テレビジョン学会 セミナー係
Tel. 03 (432) 4677
4. 参加費：正会員 35,000 円，学生会員 17,500 円，
非会員 45,000 円

文部省科研費重点領域研究 第3回公開シンポジウム「知的ヒューマンマシンインターフェイス」

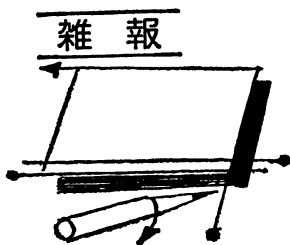
1. 平成2年2月2日（金）
2. 機械振興会館（東京都港区芝公園）
3. 名古屋大学工学部情報工学科 鳥脇純一郎
Tel. 052 (781) 5111（内 3308）

システム制御情報チュートリアル講座イーブニングスクール(E)コース「ニューラルネットワーク情報処理の基礎と応用」

1. 1990年2月2日（金），9日（金），16日（金），23日（金），3月2日（金）
2. 蔵前工業会館（東京都港区新橋）
3. システム制御情報学会 Tel. 075 (751) 6413
4. 聴講料：会員 20,000 円，学生 16,000 円，非会員 28,000 円

第11回 計算電気・電子工学シンポジウム

1. 平成2年3月29日（木）～30日（金）
2. （財）日本科学技術連盟（東京都渋谷区千駄ヶ谷）
3. 日本シミュレーション学会 Tel. 03 (5379) 1236
4. 発表申込締切：平成元年12月8日（金）



○大学等情報関係教官募集

雇用促進事業団職業訓練短期大学

- 募集人員 電子・情報処理系学科教官約20名，
制御関係学科教官約20名
- 応募資格 (1)大学において電子・情報処理関連の技術を専攻し，修士の学位を有する者又は当該技術について3～5年以上の実務経験を有する者。
(2)大学においてマイクロプロセッサの利用，応用又はメカトロニクス等の技術を専攻し，修士の学位を有する者又は当該技術について3～5年以上の実務経験を有する者。
- 採用予定 平成2年4月1日

- 提出書類 履歴書，成績証明書，卒業証明書及び研究（技術）業績書各1通
- 応募締切 平成元年10月31日
- 送付先 102 東京都千代田区麹町 2-1（住友銀行麹町ビル）
- 問合せ先 雇用促進事業団人事部人事第二課人事第二係 Tel. 03 (222) 8039, 8038

東京都立航空工業高等専門学校

- 募集人員 助教授1名
- 専門分野 電子工学科情報系
- 応募資格 (1)年齢35歳から40歳（平成2年4月1日現在）までの者，(2)博士の学位を有する方が望ましい（近く取得見込みの方を含む），(3)教育実績，ならびに研究実績（あるいは実務実績）があり，教育に熱意を持ち，研究にも情熱を持っている者
- 担当科目 主に情報処理に関する科目（講義，演習，ならびに実験）
- 着任時期 平成2年4月1日
- 提出書類 (1)履歴書（市販用紙に，写真貼付），(2)教育歴，研究歴（あるいは実務歴）と今後の研究計画（合わせて5000字程度），(3)業績一覧表（著書，論文，ならびに学会，社会などでの活動状況），(4)主要論文別刷，(5)推薦書

応募締切 平成元年 12 月 5 日
 送 付 先 116 東京都荒川区南千住 8-53-1
 問合せ先 東京都立航空工業高等専門学校
 電子工学科主任 島田一雄
 Tel. 03 (801) 0145

奈良工業高等専門学校

募集人員 助教授または講師、助手各 1 名
 所 属 情報工学科
 専門分野 計算機システム、計算機ソフトウェア、計算機
 応用・情報処理
 応募資格 ①助教授または講師 年齢 30 歳代で修士課程修
 了または同程度以上（博士の学位があれば、な
 お望ましい）
 ②助手 平成 2 年 3 月大学院修士課程修了または
 学部卒業見込みの者
 採用予定 平成 2 年 4 月 1 日
 提出書類 履歴書、研究業績一覧表、主要論文別刷
 応募締切 平成元年 12 月 20 日
 送 付 先 639-11 大和郡山市矢田町 22
 奈良工業高等専門学校情報工学科
 主任 上田勝彦
 問合せ先 Tel. 07435 (2) 5213 (内 454)

常葉学園浜松大学

募集人員 助手（経営情報学部経営情報学科）若干名
 専門分野 情報処理：研究、プログラム言語（COBOL、
 FORTRAN、PASCAL、C 言語）の演習補佐等
 応募資格 大学卒業以上またはこれに準ずる能力があると
 認められる者で 30 歳位まで（採用時）
 採用予定 平成 2 年 4 月 1 日
 条 件 浜松市あるいはその周辺地域に居住できるこ
 と、面接指定日に来学できること
 提出書類 (1)履歴書（写真添付）、(2)推薦書、(3)研究
 業績一覧表、(4)成績証明書、(5)卒業（見込）
 証明書または修了証明書
 応募締切 平成元年 12 月 28 日
 送 付 先 431-21 浜松市都田町 1230
 常葉学園浜松大学学長宛（教員応募書類と朱書
 のこと）
 問合せ先 常葉学園浜松大学 事務局長
 Tel. 0534 (28) 3511 (代)

(財)京都高度技術研究所

募集人員 数名
 専門分野 (1)ソフトウェア技術研究者（ソフトウェア工
 学、LSI CAD、コンピュータネットワーク）、
 (2)メカトロニクス研究者（計測制御、CAD/
 CAM、CIM）および(1)、(2)に関連する分
 野、(3)計算機ネットワーク管理者。研究者に
 は研究プロポーザル作成能力が望まれる。
 応募資格 修士または同等以上、国籍・年齢・性別不問
 採用予定 随時
 待 遇 等財団の規定により厚遇する。
 提出書類 ①履歴書（写真添付）、②業績リスト（新卒の人は
 修士論文の概要 2 頁位）。
 送 付 先 600 京都市下京区中堂寺南町 17
 問合せ先 京都リサーチパーク
 (財)京都高度技術研究所
 Tel. 075 (315) 3625 亀井 朗

〇スーパーコンピュータの CPU 提供研究論文募集

研究テーマ スーパーコンピュータの利用法に関するテーマで
 あれば、分野は問いません。ただし、単に大きな
 計算を行うというのではなく、スーパーコン
 ピュータを用いて初めて実現するといったよう
 な、独創的なテーマを広く募集いたします。
 提供内容 1990 年 1 月より 3 月末までの期間、弊所の SX-
 2A の CPU 時間を 100 時間/1 テーマ提供い
 たします。
 応募資格 大学院生及びそれに準ずる研究者。
 または大学、公共の研究機関に所属する研究者
 テーマ執筆要項

- ・ A 4 利用紙
- ・ 英語または日本語のワードプロセッサ使用
- ・ 形態 第 1 ページ 表題、氏名、学校名または
 勤務先名、学年または役職名、連絡先住所
 及び電話番号（連名の場合は全員分記入）
 第 2 ページ以降 本文（4 ページ以内）

SX-2A の利用形態

当研究所に設置してある端末から利用していた
 できます。なお、その際に必要となる交通費等
 の経費につきましては、一定限度内で補助いた
 します。

応募締切 1989 年 11 月 30 日
 問合せ先 104 東京都中央区勝どき 2-11 リクルート勝ど
 きビル スーパーコンピュータ研究所 CPU 提供
 制度係 Tel. 03 (536) 9661

〇第 6 回 国際会議のための準備セミナー——英語による プレゼンテーションの実践——

このセミナーでは、外国人を前にすぐれたプレゼンテーショ
 ンを行うための効果的な説得の技術と方法を講義と実際のプ
 レゼンテーションの体験を通して習得します。

主 催 (社)日本工学会
 日 時 1989 年 11 月 21 日 (火) 9:00~20:00
 22 日 (水) 9:00~17:00
 (集合: 11 月 20 日 (月) 18:00 現地)
 会 場 海外職業訓練センター研修施設 (千葉市ひび野
 1-1)
 参 加 費 80,000 円 (資料代、懇談会費等を含む)
 宿 泊 費 12,000 円 (2 泊、食事付)
 定 員 20 名
 カリキュラム

- (1) 国際会議の概要 1) 参加の目的 2) 参加者の心掛け
 3) 日本人に多い問題点の整理
- (2) 国際会議参加の準備 1) オーラルペーパーの書き方
 2) 時間配分の心得 3) AV の用意と利用法
- (3) プレゼンテーションの実践 1) 話しかた（視線・発
 声・姿勢）2) マイク・AV の使い方 3) 質疑応答の
 処理 4) 役立つ英語表現
- (4) プレゼンテーションの評価と練習法 1) 自己評価
 2) 他者評価 3) 効果的練習法

申込方法

- (1) 参加申込みを希望される方は下記に詳細パンフレッ
 トをご請求ください。
- (2) 申込締切は 11 月 4 日 (土) 日本工学会必着です。

パンフレット請求先

107 東京都港区赤坂 9-6-41 (社)日本工学会
 Tel. 03(475)4621 Fax. 03(403)1738

~~~~~  
日本学術会議だより  
~~~~~

日本学術会議研連フォーラム

日 時 平成元年 11 月 24 日 (金)
9:30~17:30
場 所 日本学術会議講堂
(東京都港区六本木 7-22-34)
テ ー マ 「長寿社会を支援する医用・福祉工学」
主 催 日本学術会議第 5 部医用生体工学研究
連絡委員会

プログラム

9:30~10:00 開会の辞 斎藤 正男 (東大)

<午前の部>

座 長
吉本 千禎 (北大名誉教授)

10:00~11:00 「高齢者のためのライフサポート
テクノロジー」

舟久保照康 (東大名誉教授)

11:00~12:00 「高齢者に対するコミュニケーション支援技術」

伊福部 達 (北大)

<午後の部>

座 長 土屋 喜一 (早大)
13:00~14:00 「高齢者のリクリエーションと健康
管理」 松田 光生 (筑波大)
14:00~15:00 「長寿社会における住環境」
古瀬 敏 (建設省)
座 長 松尾 正之 (電機大)
15:15~16:15 「高齢者に対する救援救助」
高見 尚武 (消防庁)
16:15~17:15 「老人病における ME」
折茂 肇 (東大)
17:15~17:30 閉会の辞

申込および連絡先

113 文京区本郷 7-3-1 東大(医)医用電子研究施設
委員長 斎藤 正男
Tel. 03(812)2111 (内 3563)

情報処理学会への送金口座案内

- 会費、購読費、叢書代、シンポジウム講習会
参加費等 (一般) 注)

郵便振替口座 東京 5-83484

銀行振込口座 (いずれも普通預金)

第一勧銀虎ノ門支店	1013945
三菱銀行虎ノ門公務部	0000608
住友銀行東京公務部	10899
富士銀行虎ノ門支店	993632
三井銀行本店	4298739
三和銀行東京公務部	21409

- 研究会登録費

郵便振替口座 前記に同じ

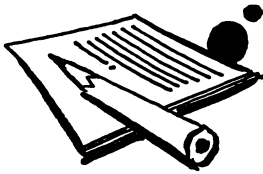
銀行振込口座 第一勧銀虎ノ門支店(前記に同じ)

- 送 金 先

社団法人 情報処理学会 Tel. 03 (505) 0505

注) 全国大会参加費、論文集予約代については、その
つど参加者に特別の振込口座をお知らせします。

著者紹介



辻井 潤一 (正会員)

昭和 24 年生。昭和 46 年京都大学工学部電子工学科卒業。昭和 48 年同大学院修士課程修了。同年、京都大学工学部電気工学第 2 教室助手、同教室助教授を経て、現在、英国マンチェスタ大 (UMIST) 計算言語学教授。工学博士。機械翻訳、自然言語理解の研究に従事し、人工知能関係一般に興味をもつ。電子情報通信学会、日本ソフトウェア科学会、日本認知科学会各会員。



安西祐一郎 (正会員)

昭和 49 年慶應義塾大学大学院博士課程修了。工学博士。北海道大学文学部助教授を経て、現在、慶應義塾大学理工学部電気工学科教授。昭和 56~57 年カーネギーメロン大学客員助教授。計算機科学、人工知能、認識の情報処理過程の研究に従事。著書「知識と表象」(産業図書) ほか。日本ソフトウェア科学会、日本心理学会各会員。



神岡 太郎 (正会員)

昭和 36 年生。昭和 60 年関西学院大学文学部心理学科卒業。昭和 62 年北海道大学文学研究科修士課程行動科学専攻修了。現在、同大学文学研究科博士課程行動科学専攻在学中。昭和 63 年より日本学術振興会特別研究員。これまで人工知能、認知心理学の研究に従事。知識表現、学習、自然言語処理などに興味がある。人工知能学会、日本ソフトウェア科学会各会員。



野村 浩郷 (正会員)

1944 年生。1967 年大阪大学工学部通信工学科卒業。1969 年同大学院修士課程修了。同年電電公社通研入所。1988 年九州工業大学情報工学部教授。1972 年工学博士。神経回路網、学習理論、知能処理、自然言語処理、機械翻訳などの研究に従事。



日高 達 (正会員)

昭和 40 年九州大学工学部電子工学科卒業。昭和 42 年同大学院修士課程修了。現在、九州大学工学部電子工学科教授。工学博士。形式言語の方程式論、自然言語の機械処理、手書き文字認識の研究を行う。



郡司 隆男 (正会員)

1951 年生。1974 年東京大学理学部物理学科卒業。1976 年同大学院修士課程修了。1981 年アメリカ合衆国オハイオ州立大学 M. A. (言語学) および Ph. D. (計算機科学)。1982 年豊橋技術科学大学勤務。1984 年大阪大学言語文化部言語工学部門助教授を経て、1989 年より大阪大学言語文化研究科言語情報科学講座助教授、現在に至る。関心のある問題として、句構造文法理論およびその機械処理との関連、言語学理論と計算的性質との関連など。著書に Japanese Phrase Structure Grammar (D. Reidel), 「自然言語の文法理論」(産業図書) など。日本認知科学会、日本言語学会、LSA、ACL などの会員。



新田 義彦 (正会員)

昭和 21 年生。昭和 44 年東京大学理学部数学科卒業。同年より(株)日立製作所中央研究所に勤務。昭和 60 年より同基礎研究所に勤務、主任研究員。昭和 52 年スタンフォード大学工学部卒業 (M. S.)。情報検索、機械翻訳、自然言語理解の研究に従事。言語理解とヒューマン・インタフェースの関係に関心がある。「知的コンピュータ事典、3 章自然言語処理、産業調査会」、「AI 総覧、7 章機械翻訳、フジ・テクノシステム」などを執筆。日本ソフトウェア科学会、

日本認知科学会, 電子情報通信学会, 人工知能学会, 論理文法研究会, ACL, ACM 各会員.



田窪 行則

1950年生. 1975年京都大学文学部卒業(言語学). 1977年同大学院修士課程修了(言語学). 1980年同博士後期課程単位取得退学(言語学).

1980~1982年韓国東国大学校慶州大学招聘専任講師を経て, 現在神戸大学教養部助教授. 日本語, 英語, 朝鮮語, 中国語などの構文論, 意味論, 語用論の研究に従事. 言語学会, 朝鮮学会, 日本認知科学会各会員.



片桐 恭弘(正会員)

1954年生. 1981年東京大学大学院工学系研究科情報工学専門課程修了. 工学博士. 同年(株)日本電信電話に入社. 自然言語処理の研究に従事.

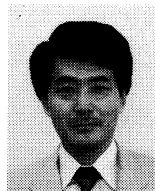
電子情報通信学会, 人工知能学会, 日本認知科学会, IEEE 各会員.



村木 一至(正会員)

昭和54年京都大学工学部博士課程退学. 昭和54年日本電気(株)入社. 以後C&C情報圏研究所にて自然言語処理の研究開発に従事. 興味

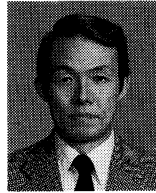
のテーマは認知の構造. ACL 会員.



飯田 仁(正会員)

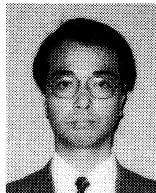
1972年早稲田大学理工学部数学科卒業. 74年同大学院修士課程修了. 同年NTT武蔵野電気通信研究所入社. 86年よりATR自動翻

訳電話研究所・言語処理研究室に外向. これまで, 知識表現, 自然言語理解, 機械翻訳などの研究に従事. 現在, 自然言語対話の理解・翻訳の研究に従事. 電子情報通信学会, 人工知能学会, 日本認知科学会, AAAI, ACL 各会員.



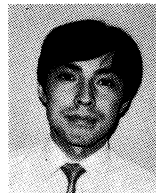
相沢 輝昭(正会員)

昭和15年生. 昭和38年京都大学工学部電気工学科卒業. 同年NHKに入局. 以来, 放送技術研究所において日本語処理および情報検索の研究に従事. 昭和61年ATR自動翻訳電話研究所に外向. 平成元年NHK放送技術研究所に復帰. 現在, 放送のための英日機械翻訳の研究に従事. 電子情報通信学会, AVIRG, ACL 各会員.



浮田 輝彦(正会員)

昭和28年生. 昭和50年京都大学工学部情報工学科卒業. 昭和55年同大学院博士課程修了. 研究生・学振奨励研究員を経て, 昭和57年(株)東芝入社. 現在, 同社総合研究所情報システム研究所研究主務. 工学博士. 音声理解・自然言語処理の研究に従事. IEEE, 電子情報通信学会, 日本音響学会, 人工知能学会, 日本認知科学会各会員.



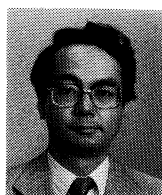
木下 聡(正会員)

1961年生. 1983年東京工業大学工学部情報工学科卒業. 1985年同大学院理工学研究科情報工学修士課程修了. 同年(株)東芝入社. 現在同社総合研究所情報システム研究所において自然言語処理の研究に従事. 日本ソフトウェア科学会会員.



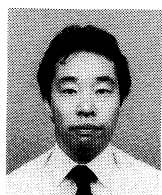
西田 豊明(正会員)

1954年生. 1977年京都大学工学部情報工学科卒業. 1979年同大学院修士課程修了. 1980年同大学院博士課程退学. 同年より, 京都大学工学部助手. 1988年6月助教授. 人工知能基礎, 特に定性推論と空間推論, 自然言語理解などの研究に従事. 京都大学工学博士. 1984年から1年間Yale大学客員研究員. 1988年人工知能学会全国大会優秀論文賞. 1988年度人工知能学会論文賞. 著書: 自然言語処理入門(オーム社)など. 人工知能学会, 日本認知科学会, 日本ソフトウェア科学会, 電子情報通信学会, AAAI, ACL 各会員. 人工知能学会編集委員など.



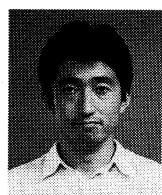
石崎 俊 (正会員)

1947年生。1970年東京大学工学部計数工学科卒業。同学科助手を経て、1972年電子技術総合研究所入所。1981年～2年、米国イエール大学客員研究員。1984年パターン情報部推論システム研究室長。現在、知能情報部自然言語研究室長。工学博士。自然言語処理、学習、音声処理などを研究。ACL, AAAI, 電子情報通信学会, 日本認知科学会などの会員。



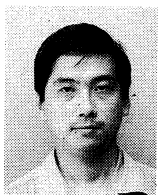
井佐原 均 (正会員)

昭和29年生。昭和53年京都大学工学部電気工学第2学科卒業。昭和55年同大学院工学研究科電気工学専攻修士課程修了。同年電子技術総合研究所入所。知能情報部自然言語研究室勤務。自然言語理解の研究に従事。日本認知科学会, ACL 各会員。



橋田 浩一 (正会員)

1958年生。1981年東京大学理学部情報科学科卒業。1986年同大学理学系研究科情報科学専門課程修了。理学博士。同年4月電子技術総合研究所入所。1988年4月より(財)新世代コンピュータ技術開発機構に出向。現在に至る。認知言語学の研究に従事。日本認知科学会, ACL, AIUEO 各会員。



杉村 領一 (正会員)

1980年京都大学工学部情報工学科卒業。同年、松下電器産業(株)入社。1985年より(財)新世代コンピュータ技術開発機構に出向。1989年4月より、松下電器産業(株)情報システム研究所(現 情報通信関西研究所)勤務。この間、かな漢字変換、並列形態素/構文解析、談話理解実験システムなどの研究開発に従事。日本ソフトウェア科学会, ACM, IEEE 各会員。



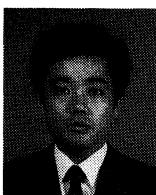
田中 裕一 (正会員)

1979年東京大学教養学部基礎科学科卒業。1984年富士通(株)入社。現在、(財)新世代コンピュータ技術開発機構出向中。自然言語処理に関する研究開発に従事 ACL 会員。



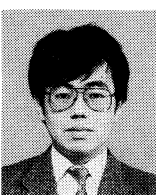
安原 宏 (正会員)

昭和21年生。昭和44年京都大学理学部数学科卒業。昭和47年同大学院修士課程修了。同年沖電気工業(株)入社。同社総合システム研究所において、自然言語理解の研究に従事。(株)日本電子化辞書研究所に併任出向中。人工知能学会, 日本認知科学会, ACL 各会員。



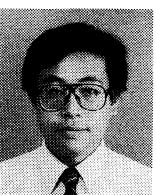
小松 英二 (正会員)

昭和31年生。昭和55年早稲田大学理工学部数学科卒業。昭和57年同大学院理工学研究科数学専攻修士課程修了。同年沖電気工業(株)入社。現在、同社総合システム研究所オフィスシステム研究部自然言語処理研究室。自然言語インタフェース、文書要約の研究に従事。自然言語ツールに興味をもつ。人工知能学会会員。



日比 孝 (正会員)

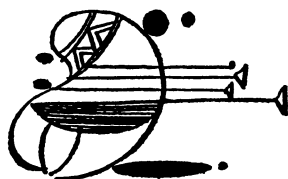
1960年生。1983年京都大学理学部卒業。1985年同大学院理学研究科修士課程(数学専攻)修了。1986年沖電気工業(株)入社。総合システム研究所に勤務。自然言語処理、機械翻訳の研究に従事。



加藤 安彦 (正会員)

1956年生。1984年埼玉大学大学院文化科学研究科学修士課程修了。同年沖電気工業(株)入社。現在(株)日本電子化辞書研究所出向中。大規模電子化辞書研究開発に従事。

研究会報告



◇ 第40回 グラフィックスとCAD 研究会

〔平成元年8月17日(木), 18日(金), 於浜名湖保養所 浜名荘, 出席者30名〕

(1) ボクセル・チェーンを用いた3D グラフィックス

石井郁夫, 小野尚紀, 大和淳二, 牧野秀夫
(新潟大)

〔内容梗概〕

3D シーンの実時間合成, 実時間3D アニメーション, 対話型3D グラフィックスなどに適する高速3D 画像生成方式を提案した。高速化とデータ圧縮のため, 3D シーンをボクセル (Voxel) のチェーンで記述した。この記述法は隣接ボクセル間の位置関係を表わすベクトルのチェーンだけで3D 形状を表現した。したがって, 少数の隣接ボクセル間結合ベクトルのパラメータの変更だけで任意形状物体の回転やスケールが可能で, 比較的小規模のハードウェアで実時間化できた。あらかじめ3Dシーンを構成する複数の物体をそれぞれ独立のサブスペース上にボクセルチェーン方式で記録しておく。色はボクセルごとに与えた。物体の向きと視点に対応した結合ベクトル・パラメータならびにワールド座標上のサブスペース原点座標を物体ごとに与え, それらを適宜更新することによって, 物体ごとに独立な回転・移動・スケールなどが表現できる。さらにZバッファによる陰面消去を専用ハードウェアにより実時間で処理した。

(グラフィックスとCAD 研資料 89-40)

(2) 画素シフト法に基づく非解析的テクスチャとその自然対象物生成への応用

岡田 稔, 横井茂樹, 鳥脇純一郎 (名大)

〔内容梗概〕

自然界のシーンに存在する物体 (自然対象物) のなかで, 解析的関数で近似表現できるものは非常に少ない。岩石, 雲, 地形, 動植物などの表面に見られる模様は一般に非解析的関数として扱う必要がある。この

ような非解析的な自然対象物を表現するために, 解析的関数で与えられた基本テクスチャをランダム・フラクタルに基づいて位置を変位させ, 結果として生成された非解析的なテクスチャを用いる方法が有効である。本稿ではこの手法を画素シフト法として一般化し, コンピュータ・グラフィックスによるさまざまな自然対象物の画像生成に有効であることを示した。

(グラフィックスとCAD 研資料 89-40)

(3) 自然対象物のモデリングと確率過程

安生健一 (日立)

〔内容梗概〕

コンピュータグラフィックス (CG) における自然物形状モデリングの分野で, 確率過程という数学的概念が, 特に1980年代に入って, 有効に使われるようになってきた。

本稿では, CG への応用という観点から, 確率過程の概念がどのように利用され, 拡張されているかを概観し, その具体例として一変数確率過程のスペクトル分解を応用した自然物形状の確率場モデルを紹介した。本手法は山・雲・海洋波などを統一的かつ簡便に作成するための手段として開発されたものである。最後に, 自然対象物のモデリングのための確率過程の今後の役割について述べた。

(グラフィックスとCAD 研資料 89-40)

(4) コンピュータ・グラフィックスにおける干渉色表示の検討

横井茂樹, 鈴木信雄, 鳥脇純一郎 (名大)

〔内容梗概〕

色彩の生成の一つの原因として, 光の干渉によるものがある。本文では, 従来行われていなかった, 光の干渉色を表示する方法について検討を行った。基本的には, 干渉にともなう光線の分光エネルギースペクトルの変化の計算モデルを導出した。さらに, 本モデルに基づき, 自然物体の一つであるしゃぼん玉の表示を試み, 良好な結果を得たので報告した。

(グラフィックスとCAD 研資料 89-40)

(5) 水や煙の流れのシミュレーション

千葉則茂 (岩手大), 村岡一信 (盛岡短大)

中川滋雄 (東北大)

〔内容梗概〕

溪流などの複雑な水流, 煙のたなびき, 炎のゆらめきなど, 流れは自然現象に広く現れるため, その動きの表現はCGによる自然景観のシミュレーションにも重要な役割を果たす。

本報告では、“流体粒子”や“渦場”の行動モデルによる水流、煙、および炎などの動きのシミュレーション法を提案した。

(グラフィックスと CAD 研資料 89-40)

(6) 2次元テクスチャによる不定形な自然対象物のデザイン —(1) 基本操作—

大島登志一、板橋秀一(筑波大)

【内容梗概】

雲状対象物の CG 表現に関する研究は少なくないが、アニメーションを中心にしたものは多くない。本研究では、モデルの理論的妥当性や写実性よりは、デザインの柔軟性とコストの低さを重視し、アニメーションの制作を目的とした、雲状対象物の表現のための一手法の開発を進めている。本手法は、雲状対象物の視覚的微細構造を表現する素材テクスチャを変形・シフトすることによって揺らぎ・流れを表し、局所的に濃度変換を施すことによって、全体的な形状を決定するというものである。本中間報告では、先に分類したテクスチャに関する基本操作をより一般化したものについて述べた。

(グラフィックスと CAD 研資料 89-40)

(7) 大気散乱を考慮した太陽高度による色彩変化

深澤正大(東京工芸大)

【内容梗概】

自然界における色彩の変化で最も身近なものは太陽光である。晴れた日の空の青さや、曇りの日の白っぽさ、朝焼け、夕焼けの赤さ、雨の日の暗さ等、多様な変化を示す。これらの色を CRT で忠実に色再現を行うことは大変な無理がある。しかしこれらの違いの要因を考慮した計算による変化を表示することはできる。さらに厳密にはディスプレイ上に表示されたものとハードコピーに記録されたものでも色は違っているのが事実である。変化要因の抽出と色の再現を試みた。

(グラフィックスと CAD 研資料 89-40)

(8) 異方性反射モデルによる布地の質感表現

安田孝美、鈴木克知、横井茂樹
鳥脇純一郎(名大)

稲垣勝彦(名古屋市立女子短大)

【内容梗概】

本論文では、コンピュータ・グラフィックスにおける布地の材質感表現について述べた。これは、布地の質感をその形状により表現しようとする従来の研究に

対して、布の微視的な構造から光の反射モデルを考案して、シェーディングにより質感を表現しようとする初めての試みである。具体的には布地における反射光を、(1)表面での正反射光、(2)布地内部からの反射光、(3)拡散反射光、の3つの成分から構成されると考えた。本研究の特徴は、布地の微視的な構造による独特の反射を、断面形状が楕円の微小面分布を考えることによりモデル化することにある。

提案した布地独自の光の反射モデルにより、絹、木綿、玉虫織りの各種材質感の表示実験を行い、ほぼ満足のいく結果を得た。

(グラフィックスと CAD 研資料 89-40)

(9) 石垣パターンの生成技法について

宮田一乗(日本 IBM)

【内容梗概】

現在、各種のテクスチャを生成するテクスチャ・ジェネレータを試作中である。今回は、その中の石垣パターンの生成技法について報告した。生成に用いるパラメータとしては、積石の平均の大きさ(縦、横、高さ)、積石の粗さ、積石の大きさのばらつき、および積み方の種類等を用いている。また、出力には、表面の高さ情報を表すバンプファイルと、石垣の目地と岩石領域の属性を表す属性ファイルが出力される。生成された石垣パターンを、城郭や外壁にマッピングすることにより、建築分野でのプレゼンテーション用として、より現実感のある画像を生成することができた。

(グラフィックスと CAD 研資料 89-40)

(10) CG による自然物体の生成技法

中嶋正之(東工大)

【内容梗概】

コンピュータグラフィックス(CG)を用いた自然物体の生成に関する研究の紹介を行った。コンピュータグラフィックス表現の対象は、大きく分けて機械部品や建築物のような人工的に作られた物体と自然界に存在する山、雲、樹木などの自然物体であり、自然物体も無機物(個体、流体、自然現象、等)と生命体(植物、動物、等)に分けられる。本報告では無機物および、生命体の中の植物について、主なCG生成技法および文献について紹介した。またCGによる物体表現の問題点と主な応用についても述べた。

なお、グラフィックスとCAD研究会は、毎年夏に浜名湖において集中研究会を行っているが今年のテーマは「自然対象物のモデリングと表現技術」となっている。本報告は、当集中研究会の最後に行う恒例の総

合討論における“キーノート”に相当している。

(グラフィックスと CAD 研資料 89-40)

(11) 山岳・地形の生成技法の研究動向

宮田一乗 (日本 IBM)

[内容梗概]

本報告では、山岳・地形を対象に、その形状定義に関する研究、表現技法に関する研究の二つに分けて、現在の研究動向について解説した。

(グラフィックスと CAD 研資料 89-40)

(12) 樹木・草本の生成に関する研究動向

千葉則茂 (岩手大)

[内容梗概]

本報告では、樹木や草本の表現のためにどのようなモデリング手法が期待されるかについて考察した。そして、これまでに提案されている種々の手法がどのようなものとして位置づけられるかについて述べ、リアリティあふれるシミュレーションには生長モデルに基づく手法が有望であることを述べた。

(グラフィックスと CAD 研資料 89-40)

(13) 金属・岩石の生成に関する研究動向

横井茂樹 (名大)

[内容梗概]

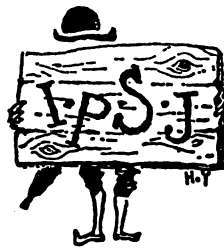
金属、岩石をコンピュータグラフィックスで生成・表示する手法に関する研究について解説し、その動向を紹介した。(グラフィックスと CAD 研資料 89-40)

(14) 服地・布の生成に関する研究動向

今岡春樹 (繊維高分子材料研)

[内容梗概]

柔軟物体の一つである、布の生成技法に関する研究動向について述べた。布の形状生成が困難であると考えられている最大の原因は、布が柔軟物体であることにあるが、近年さまざまな分野でこの柔らかさを表現しようという研究が成されている。CG の分野では、布らしさをよりリアルに表現しようという目的で研究が行われている。CAD の分野では、現実にある衣服を、3次元画像で表現しようという目的で研究が行われている。(グラフィックスと CAD 研資料 89-40)



情報技術標準化のページ



IPSJ/ITSCJ

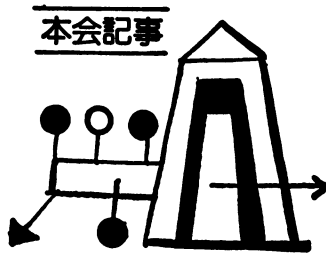
略号説明

DIS: Draft International Standard
 DAD: Draft Addendum, DIS と同等に扱われる.
 DTR: Draft Technical Report
 NWI: New Work Item (新作業項目)

■ISO/IEC 規格発行

- ISO 7776 Data communication—High-level data link control procedures—Description of the X.25 LAPB-compatible DTE data link procedures TECHNICAL CORRIGENDUM 2 1 p.
- ISO 8478/AD 3 Data communications—Protocol for providing the connectionless-mode network service ADDENDUM 3: Provision of the underlying service assumed by ISO 8473 over subnetworks which provide the OSI data link service 2 pp.
- ISO 8613-1 Office Document Architecture (ODA) and interchange format—Part 1: Introduction and general principle 38 pp.
- ISO 8613-2 Part 2: Document structures 230 pp.
- ISO 8613-4 Part 4: Document profile 20 pp.
- ISO 8613-5 Part 5: Office Document Interchange Format (ODIF) 88 pp.
- ISO 8613-6 Part 6: Character content architectures 91 pp.
- ISO 8613-7 Part 7: Raster graphics content architectures 46 pp.
- ISO 8613-8 Part 8: Geometric graphics content architectures 51 pp.
- ISO/IEC 8631 Program constructs and conventions for their representation (2nd edition) 7 pp.
- ISO 9074 OSI—Estelle: A formal description technique based on an extended state transition model 179 pp.
- ISO 8316 Small Computer System Interface (SCSI) 169 pp.
- ISO/IEC 9496 CCITT high level language(CHILL) (same as CCITT Recommendation Z.200) 249 pp.
- ISO/IEC 10149 Data interchange on read-only 120 mm optical data disks (CD-ROM) 43 pp.
- DIS/DTR 投票
- 8878/DAD 1 Data communications—Use of X.25 to provide the OSI connection-mode network service—ADDENDUM 1: Protection and priority 8 pp.
- 8878/DAD 2 Data communications—Use of X.25 to provide the OSI connection-mode network service—Addendum 2: Use of an X.25 PVC to provide the OSI CONS 4 pp.
- DIS 9281-1.2 Picture coding methods—Part 1: Identification 10 pp.
- DIS 9281-2.2 Picture coding methods—Part 2: Procedure for registration 3 pp.
- DIS 10116 Modes of operation for an n-bit block cipher algorithm 9 pp.
- DTR 9577 Protocol Identification in the Network

- (JTC1N491) Layer (TR Type 3) 9 pp.
- DTR 10000-1 International Standardized Profiles—(JTC1N467) Part 1: Taxonomy Framework (TR (SG-FS) Type 3) 27 pp.
- DTR 10000-2 International Standardized Profiles—(JTC1N468) Part 2: Taxonomy of Profiles (TR (SG-FS) Type 3) 17 pp.
- DTR 10023 Formal Description of ISO 8072 in (JTC1N457) LOTOS (TR Type 3) 16 pp. (SC 6)
- DTR 10171 List of Standard Data Link Layer (JTC1N456) Protocols that utilise high-level data link control (HDLC) Classes of Procedures (TR Type 3) 4 pp.
- DTR 10176 Guidelines for the preparation of (JTC1N494) programming language standards (TR (SC 22) Type 3) 43 pp.
- NWI 投票
- JTC1N474 OSI Upper Layer Security Model (SC 21)
- JTC1N479 Revision of the OSI Reference Model—General Aspects (SC 21)
- JTC1N480 Revision of the OSI Reference Model—Upper Layers (SC 21)
- JTC1N481 Revision of the OSI Reference Model—Lower Layer (SC 21)
- JTC1N486 Generic Data Management Export/Import (SC 21)
- JTC1N483 PICS Proforma for the OSI Directory Protocol (Addendum to ISO 9594) (SC 21)
- JTC1N484 Addenda to Common Management Information Service (DIS 9595) and Common Management Information Protocol (DIS 9596)—Suppress Reply (SC 21)
- JTC1N482 Virtual Terminal PICS Proforma (Addendum to ISO 9041) (SC 21)
- JTC1N470 Addendum to Presentation Layer Standards to give Confidentiality and Integrity Service (SC 21)
- JTC1N471 ISO 8824 abd ISO 8825 Addendum 2 (Introduction of new features, and major revision of macro notation) (SC 21)
- JTC1N472 Addendum to ISO 8822 and ISO 8823 to use Unlimited User Data (SC 21)
- JTC1N473 Registration Authority Procedures for Authentication Mechanisms (new part of ISO 9834) (SC 21)
- JTC1N475 PICS Proforma for the Connectionless Session Protocol (SC 21)
- JTC1N476 PICS Proforma for the Connectionless Presentation Protocol (SC 21)
- JTC1N477 PICS Proforma for the CCR Protocol (SC 21)
- JTC1N478 PICS Proforma for the A-UNIT-DATA Protocol (Addendum to ISO 10035) (SC 21)
- 9月に開催された JTC1 直属組織の会議
- 1) SWG-EDI (Conceptual Model for EDI standards and services), 1989-09-04/08, パリ
 正式には第1回会議で, EDI 定義に関連する基本要件を整理した文書を作成し, National Body や JTC1 内外のリレー文書機関の寄書を求めることになった。当面4カ月ごとに会議を行う。
- 2) TSG-1 (Interfaces for Application Portability), 1989-09-04/08, レネッセ (オランダ)
 3回目の会議で, 5つのトピックのうち User Requirementsの骨格を決めたほか, 他のトピック, Concept & Definition, Portability, Internationalization, Framework/Modelの進展はあった。次回は来年2/3月コペンハーゲンで開催。
- 3) SWG-Security Objective, Overall Architecture and Coordination, 1989-09-11/13, レンヌ (フランス)
 JTC1 内の情報技術関連Security標準化の調整会議。



第 334 回 理事会

日 時 平成元年 7 月 20 日 (木) 17:30~20:10

会 場 機械振興会館 6 階 65 号室

出席者 三浦会長, 野口, 戸田各副会長, 池田, 遠藤
白井, 堂下, 三木, 村井, 矢島, 山田, 竹井
千葉, 苗村, 益田, 横井各理事, 澁谷, 渡部
各監事, 三好 (北海道), 堀口 (代理, 東北)
高橋 (四国), 長田 (九州) 各支部長
(事務局) 桜間局長, 飯塚, 斉藤各部長, 坂元
事務長, 田中, 石丸各部長補佐

議 事

1. 前回議事録を確認した。
2. 総務関係 (三木, 千葉, 市川各理事)
 - 2.1 平成元年 6 月期開催会議
 理事会・編集委員会, 大会など 20
 30 周年関係委員会 9 } 49(回)
 研究会・連絡会 20
 情報規格調査会 76(回)
 - 2.2 会員状況報告
 正 会 員 29,428(名)
 学生会員 593 } 30,023(名)
 海外会員 2
 賛助会員 442(社) (567口)
 - 2.3 平成元年 5 月期の会計収支状況表ならびに事業部門別収支管理表につき報告があった。
 - 2.4 本日理事会前に平成元年度第 1 回支部長会議を開き, 本年度創立の四国支部を含め各支部の事業活動計画を中心に打合せを行った。
 - 2.5 一括扱い会員数は現在 5 名以上となっているが, これを今後新規の申込みについては 10 名以上に変更したい旨提案があり, 承認された。
- なお, 現在 9 名以下のグループについては, 10 名以上になるよう会員増を依頼することとした。
3. 機関誌関係
 - 3.1 学会誌編集委員会 (山田, 白井, 苗村各理事)
 去る 7 月 13 日に第 141 回学会誌編集委員会を開き, 学会誌 30 巻 8 号~11 号の編集および WG 特集企画の相互評価を行った。
 - 3.2 論文誌編集委員会 (村井, 益田各理事)

去る 7 月 18 日に第 132 回論文誌編集委員会を開き, 論文誌 30 巻 9 号~10 号の編集その他投稿, 査読状況の確認および査読委員の追加を行った。

3.3 欧文誌編集委員会 (堂下, 上村各理事)

去る 7 月 12 日に第 99 回欧文誌編集委員会を開き, Vol. 12, No. 4~Vol. 13, No. 2 の進行状況および目次案の審議, Vol. 13, No. 3 以降の特集号企画案の検討を行った。

4. 事業関係 (池田, 板倉, 横井各理事)

4.1 来る 9 月 5 日 (火)~7 日 (木) に早稲田大学理工学部で開催の, 平成元年電気・情報関連学会連合大会 (電気学会担当) につき報告があった。

4.2 去る 6 月 23 日に第 39 回全国大会 (10 月 16 日~18 日, 九州工業大学) 第 1 回運営委員会を開き, 以下の事項につき審議検討した旨報告があり, 承認された。

(1) 特別講演, 招待講演, パネル討論のテーマおよび講師候補の決定

(2) 懇親会, 展示会, 見学会の企画

(3) 第 40 回全国大会 (平成 2 年 3 月 13 日~16 日, 早稲田大学理工学部) を 30 周年記念大会とし, 初日の 13 日 (火) に早稲田大学大隈講堂で記念講演会を開催

4.3 全国大会運営委員会および同プログラム編集委員会規程の制定につき, 同規程案にもとづき説明があり, 承認された。

4.4 去る 7 月 13 日に第 38 回全国大会 (3 月 15 日~17 日, 中央大学理工学部) 学術奨励賞委員会を開き, 規程ならびに選定手続に則り受賞候補者 11 名を決定した旨報告があり, 了承された。なお, 受賞者は次のとおりである。

渡辺正規 (筑波大), 小谷 亮 (京大), 吉村裕美子 (東芝), 野村直之 (日電), 伊庭斉志 (東大), 金 宗根 (電通大), 岡崎 洋 (キャノン), 佐藤文明 (三菱), 高橋健司 (NTT), 加藤俊一 (電総研), 楊 維康 (東大)

4.5 シンポジウム等の協賛依頼について, システム制御情報学会等 6 団体, 6 件の協賛名義借用依頼を承認した。

5. 調査研究関係 (遠藤, 竹井各理事)

5.1 去る 6 月 16 日に第 67 回調査研究運営委員会を開き, 昭和 63 年度研究会活動状況および平成元年度活動計画等につき審議した旨報告があり, 了承された。主な内容は以下のとおりである。

(1) 平成元年度調査研究運営委員会および各研究連絡委員の確認

(2) 昭和 63 年度研究会活動状況と収支決算の報告

(3) 平成元年度研究会活動計画と収支予算の確認

(4) 平成元年度研究賞受賞候補者の決定

田淵 篤(NL, 日電), 諏訪正樹(AI, 日立), 仲谷美江(SE, 三菱), 坂井修一(ARC, 電総研), 浅田 稔(CV, 阪大), 木下哲男(DPS, 沖), 安藤英俊(CG, 東大), 藤田 博(SF, 三菱), 久世和資(PL, 日本アイ・ピー・エム)

(5) 音楽情報科学研究グループ(発起人代表 平田圭二)の新設願いの承認。

(6) シンポジウム等の開催願い8件, 研究会の共催願い6件の承認。

5.2 調査研究運営委員会幹事会の設置に関し, 調査研究に関する規程改訂案および幹事会運営内規案の提案説明があり, 承認した。

5.3 「大学等における情報処理教育のための調査研究」につき, 文部省から正式委嘱の依頼があった旨報告があり, 同委嘱を受諾することを了承した。

5.4 シンポジウムの開催, 研究会の共催および講習会の終了につき, 次の研究会から提案あるいは報告があり, いずれも承認された。

(1) シンポジウムの開催

○学習のパラダイムとその応用(知識工学と人工知能研究会)

元年11月6日～7日, 機械振興会館, 参加人員(予想)170名

(2) 研究会の共催

○Design & Test(設計自動化研究会, 電子情報通信学会)

元年10月24日～25日, 明治大学

○論理合成・シミュレーション(設計自動化研究会, 電子情報通信学会)

元年12月14日～15日, 奈良女子大学

○並列処理(計算機アーキテクチャ研究会, 電子情報通信学会)

元年11月20日～21日, 神戸ポートピア(予定)

○第32回研究会(ソフトウェア基礎論研究会, 電子情報通信学会)

元年11月13日, ATR

(3) 講習会の終了

○AI技術を使用したCADシステム(設計自動化研究会)

元年6月5日, 機械振興会館, 参加人員 129名

6. 情報規格調査会(遠藤, 竹井各理事)

6.1 第31回規格役員会(6月23日)議事録により, 活動状況, 第2回情報技術標準化フォーラム開催計画, Newsletter第2号の発行等につき報告があった。

6.2 「第3回アジア情報技術標準化フォーラム」(主催国際情報化協力センター)の協賛名義借用依頼を承認した。

7. 国際関係(矢島, 上林各理事)

7.1 COMPSAC '91につき説明があった。国際委員会と同国際会議の組織構成と予算案(募金規模)を検討し, 理事会に提案することとした。

7.2 下記2件の国際会議の協賛名義借用依頼を承認した。

○第3回オプトエレクトロニクスコンファレンス(主催電子情報通信学会)

○トロンプロジェクト国際シンポジウム(主催トロン協会)

8. 30周年記念事業関係

8.1 去る6月23日に第6回実行委員会を開き, 各委員会から活動状況報告を受け, 提案事項の審議, 決定を行った旨説明があり, 了承された。主な事項は次のとおりである。

(1) 記念式典の期日, 会場は平成2年6月18日(月), 虎ノ門パストラルとした。

(2) 国際会議参加登録費は90年7月15日までは5万円, 以後6万円とし, 学生はこの半分とした。

(3) 情報処理学会が発展するにふさわしい環境の確保につき, 各種調査検討を進め答申書をまとめる。

(4) 「30年のあゆみ」の目次案および進捗状況, 記念論文の応募状況等の報告があった。

8.2 去る3月理事会で未来委員会に継続検討を依頼した「情報処理学会に望まれる環境の確保に向けて」につき中間報告があった。

9. 平成元年度の重点施策事項につき各担当(除国際)から項目, 検討内容およびスケジュール等の説明があり, 財務委員会の設置を含め了承された。

10. その他

(1) 去る6月23日に開いた第4回アカデミック・ネットワーク検討委員会の審議状況および準備委員会を検討委員会に改称, WGの設置等につき報告があった。

(2) 去る7月5日に開かれた平成元年度第1回学会発表データベース(第一系)連絡会議の報告および学会発表データベース(第一系)への4学協会の参加承認依頼につき説明があり, 了承された。

(3) 東レ科学振興会および日産科学振興財団から研究助成候補者等の推薦依頼があった。

11. 次回予定 9月21日(木)17:30～

機関誌編集委員会

○第143回 学会誌編集委員会

9月14日(木)18:00～21:00に機械振興会館6階67号室で開いた。

(出席者) 山田委員長, 苗村副委員長

(FWG) 有澤, 田中, 天野, 岩野, 宇田川, 熊沢外山, 野寺, 宮本, 守屋各委員

(SWG) 清木, 市吉, 小野, 久世, 田胡, 遠山

中川, 日野, 福岡各委員

(HWG) 小池, 今井, 斎藤, 榊, 藤原各委員

(AWG) 伊藤, 秋山(代理 四野見), 川添, 橋本
星野, 宮崎各委員

議 事

1. 前回議事録を確認了承した。
2. 学会誌目次(案)により, 次のとおり発行状況を確認した。

(1) 30 巻 10 号(大特集)……1 件未脱稿は, 脱稿査読を促進する。なお, 今後特集号のなかで脱稿しないものは, 適当な時期に切ることとした。

(2) 30 巻 11 号……「DSP」特集の 11 件は予定どおり進行中。今回シンポジウムパネル討論「卓上出版のネットワーク化」を加えることとした。

(3) 30 巻 12 号……「VLSI のテスト容易化設計」小特集の 6 件はすべて脱稿, うち 1 件ページオーバのため著者と調整中のほかは予定どおり進行中。今回「最大流アルゴリズムの最近の発展とその背景 単発」を加えることとした。

(4) 31 巻 1 号……「通信システムの形式記述技法の標準化」特集 9 件に, シンポジウムパネル討論「知的 CAI の実現」, 第 38 回全国大会パネル討論「高性能ワークステーションの将来」, 単発「最近の航空管制システム」を加え目次構成を終えた。

3. 「解説・講座等管理表」により, 各 WG からの報告と審議をおこなった。

(1) FWG (主査 有澤)

・「単眼視画像からの 3 次元情報復元—中心投影の逆問題とその解法 単発」の再審議をおこない了承となった。

・「ビザンチン合意問題—信頼性の低いネットワーク上での合意問題 単発」の執筆内容(案)再を審議了承し, 執筆依頼することとした。

・「遺伝子データベースと遺伝子情報の解析 小特集 31 巻 7 号」の全執筆内容(案) 5 件を審議した。一部については出されたコメントを反映していただくことで全内容(案)を了承した。

・「精度保証付き数値計算とその応用 特集 31 巻 9 号」の執筆内容(案) 7 件の審議を終えた。

(2) SWG (主査 清木)

・「TCP/IP による計算機ネットワークの構築技法 単発」の執筆内容(案)を審議了承した。

・「デスクトップ・パブリッシング 特集」企画(案)を審議了承した。

(3) HWG (主査 小池)

・「ISDN を利用したテレビ会議・テレビ電話方式の標準化動向 単発」の執筆内容(案)再を審議了承し, 執筆依頼することとした。

(4) AWG (主査 後藤)

・「スーパーコンピュータによる最近の計算科学の動向 単発」の執筆内容(案)を審議了承した。

・「高エネルギー物理学における極限的コンピュータ利用技術 小特集」(企画(案))を審議了承し, 執筆内容(案)を依頼することとした。

4. その他

(1) SWG が AWG の大特集「コンピュータ・グラフィックス」(29 巻 10 号)の評価をおこなった。

技術的に高い水準のものが多く, 情報処理学会誌として, ふさわしい意義のある特集であった。編集にあたってページをふやしても全解説をまとめる解説がほしい。用語の不統一, 図表だけをながめて, 概観ができることが望ましいなどの感想がのべられた。

(2) 全国大会などのパネル討論を出来るだけ早く掲載するために手順の見直しをおこなった。

依頼時に, 学会誌に掲載されることを周知させ, 意識してしゃべってもらう。ある期間までに進行しない場合はボツにするなど, 意見が出され, 切る期間などは次回以降検討することとして了承となった。

(3) 学会誌改善検討委員会, 編集理事会の報告があり, 今回は通常審議を少なくして, 学会誌のあり方, 特に特集号について等を審議することとした。

5. 次回予定 10 月 12 日(木) 18:00~

○第 133 回 論文誌編集委員会

9 月 12 日(火) 18:00~21:00 に機械振興会館 6 階 61 号室で開いた。

(出席者) 村井委員長, 益田副委員長, 浮田, 小池
小谷, 佐藤, 島津, 戸川, 永田, 松田
三浦, 吉澤, 米崎各委員

議 事

1. 前回議事録を確認了承した。
2. 新投稿 20 件, 採録判定論文 34 件, 問題論文 11 件, 不採録判定論文 2 件, 処置待ち論文 2 件。
3. 30 巻 11 号掲載論文 (20 件) を決定し佐藤委員が目次作成を担当する。なお, 30 巻 12 号は並列処理特集 (14 件), 担当は牛島前委員長。
4. 投稿論文の処理について審議した。
5. その他

(1) 査読期間の短縮方法, 不採録判定論文の著者からの質問に対する処置, 連続投稿と見られる論文の受付時の処理などについて審議し, 年内に委員会の見解をまとめることとした。

(2) Info Japan '90 運営委員会から検討依頼のあった推せん論文の掲載は, 日本語に翻訳したものを, 通常の手順に従って査読し, 数によっては特集とする旨報告することとした。

(3) 新査読委員として徳永健伸 東工大(情報工学科), 奥村 学 東工大(情報工学科), 伊藤 深

上智大(理工)の3氏名を了承した。

(4) 機関誌執筆案内および査読後の照会文に、査読者あての回答文(書式自由)を必ず添付することを明記することとした。

6. 次回予定 10月11日(水) 18:00~

○第100回 欧文誌編集委員会

9月13日(水) 18:00~20:45 に機械振興会館 6階64号室で開いた。

(出席者) 上村副委員長, 築山, 伏見, 安村各委員
議 事

1. 前回議事録を確認了承した。

2. 投稿論文の処理について審議した。

新投稿3件, 照会中5件, 査読中20件, 照会後掲載2件, 採録7件, 不採録1件, 査読者割当中2件。

3. 進行中の特集号, Vol. 12, No. 4 日本語文書処理特集 担当 黒須委員, Vol. 13, No. 1 日本のLisp 特集 担当 安村委員, Vol. 13, No. 2 日本のマイクロプロセッサ特集 担当 伏見委員の進行状況を確認した結果, 今回採録分と Vol. 12, No. 3 に予定した9件中の2件をくり下げ Vol. 12, No. 4 を普通号とし, 今年中に発行することとした。したがって前記 Vol. 12, No. 4 より1号ずつくり下げることとした。

4. その他

(1) 「日本における自然言語処理の研究」特集号(案)の構成案を確認し, 次回以降審議することとした。

(2) Info Japan '90 運営委員会から検討依頼された論文を欧文誌に掲載する件につき審議した結果, 学会全体として同じルールで扱った方がよいと考えるので, 欧文誌編集委員会としては解答を保留した。

(3) 欧文誌の拡販と定期発行について

事務局作成の資料により, 現況報告と, 拡販にむけての具体案を確認した。

(4) 木村 泉(東工大)委員より辞任の申出がありました。

5. 次回予定 10月13日(金) 18:00~

各種委員会 (1989年8月21日~1989年9月20日)

○8月25日(金) アカデミック・ネットワーク検討委員会

○8月26日(土) 大学等教育検討委員会

○9月1日(金) 人文科学とコンピュータ連絡会

○9月5日(火) ソフトウェア工学連絡会

文献ニュース小委員会

CAPE 89 実行委員会

連合大会

○9月6日(水) 30周年国際運営委員会

連合大会

○9月7日(木) CAPE 打合せ

連合大会

○9月8日(金) データベース・システム, オペレーティング・システム合同研究会・連絡会

ソフトウェア基礎論研究会・連絡会

アドバンスト・データベース・システム・シンポジウム打合せ

○9月11日(月) 教育における新しい方法シンポジウム実行委員会

30周年30年のあゆみ小委員会

30周年記念式典小委員会

○9月12日(火) 30周年プログラム委員会拡大編集委員会

理事連絡会

論文誌編集委員会

プログラミング・シンポジウム幹事会

○9月13日(水) ヒューマンインタフェース研究会・連絡会

欧文誌編集委員会

談話理解モデルとその応用シンポジウム実行委員会

調査研究幹事会

全国大会運営委員会

○9月14日(木) 学会誌編集委員会

OA委員会

コンピュータと教育研究会・連絡会

○9月18日(月) 30周年プログラム委員会拡大編集委員会

○9月19日(火) 30周年未来委員会

CAPE ツアー委員会

計算機アーキテクチャ研究会・連絡会

情報システム連絡会

○9月20日(水) アカデミック・ネットワーク検討委員会WG

ソフトウェア基礎論研究会

(規格関係委員会)

○8月21日(月) 機能標準, SC18/WG4

○8月22日(火) SC1/WG4, SC21/WG3・5 合同, SC21/WG5(TP) Ad hoc, SC22/Prolog

○8月23日(水) SC6/WG1, SC6/WG4, SC23/WG4 TSG-1 Ad hoc, SC23/WG4 TSG-2/3 Ad hoc, SC23/WG5

- 8 月 24 日 (木) SC 18, SC 20/WG 1・3, SC 21/WG 3(RDA) Ad hoc, SC 21/WG 6, SC 21/WG 7 (ODA) Ad hoc, SC 23/WG 1
- 8 月 25 日 (金) SC 18/WG 3・5, SC 21/WG 3(IRDS) Ad hoc, NL 編集
- 8 月 28 日 (月) SC 21/WG 4
- 8 月 29 日 (火) SC 6/WG 2, SC 6/WG 6, SC 13, SC 21/WG 3, SC 21/WG 3(SQL) Ad hoc, SC 23, SSI Ad hoc
- 8 月 30 日 (水) SC 21/WG 5, SC 23
- 8 月 31 日 (木) SC 7, SC 21/WG 7 セキュリティ Ad hoc, SC 24/WG 2, SC 83/WG 2
- 9 月 1 日 (金) 役員会, 技術委員会, SC 21/WG 6, SC 22/BASIC Ad hoc, SC 22/C, SC 22/LISP Ad hoc 2, SSI/ウィンドウ
- 9 月 4 日 (月) SC 22/Ada, 暗号 JIS
- 9 月 5 日 (火) SC 6/WG 2, SC 6/WG 2・4 OSI 管理 Ad hoc, SC 6/WG 3, SC 21, SC 21/WG 3(IRDS) Ad hoc, SC 22/COBOL
- 9 月 6 日 (水) SC 6/WG 1, SC 6/WG 4, SC 23/WG 4 Ad hoc, SC 23/WG 5(TSG-51) Ad hoc, SC 23/WG 5(TSG-52) Ad hoc
- 9 月 7 日 (木) SC 2 Ad hoc, SC 6, SC 22
- 9 月 8 日 (金) FDT-SWG, SC 6/WG 2・4 国際会議打合せ, SC 13/WG 1, SC 21/WG 7 Ad hoc, SC 24, SC 24/WG 1, SC 24/WG 5
- 9 月 11 日 (月) SC 2, SC 21/WG 4, 符号 JIS
- 9 月 12 日 (火) SC 1/WG 6, SC 14, SC 21/WG 6, SC 22/Prolog, OSI 管理ワークショップ Ad hoc
- 9 月 13 日 (水) SC 18/WG 1, SC 21/WG 3(RDA) Ad hoc, SC 23/WG 4 編集 Ad hoc
- 9 月 14 日 (木) SC 18/WG 3・5, SC 18/WG 4
- 9 月 18 日 (月) SWG-EDI Ad hoc, SC 23/WG 4 (TSG-3) Ad hoc, SSI/POSIX
- 9 月 19 日 (火) SWG-EDI, SC 1/WG 4, SC 6/WG 2, SC 20, SC 21/WG 3(IRDS) Ad hoc, SC 21/WG 5, SC 24/WG 1 Ad hoc
- 9 月 20 日 (水) SC 6/WG 1, SC 6/WG 4, SC 13 Ad hoc, SC 18, SC 21/WG 5(TP) Ad hoc, SC 23 国際会議打合せ, SC 23/WG 4(TSG-1・2・3) Ad hoc, SC 23/WG 5, 日本語機能

新 規 入 会 者

平成元年 9 月の理事会で入会を承認された方々は次のとおりです (会員番号, 敬称略)。

【正会員】 渡辺 隆, 芝 勇一, 芝崎英男, 島袋一寛, 鳥居和宏, 松下智昭, 山中美雪, 道明誠一, 阿部嘉則, 石川 勤, 表 武志, 小林淳一, 雑賀敏昌, 土居靖典, 中里桂一, 本多 健, 国江友麿, 生田将直, 新田 稔, 大澤史明, 大塚正夫, 松林光男, 岡市春夫, 大野裕美子, 川畑弘之, 鈴木美緒, 高橋俊江, 田中英和, 豊崎和典, 中澤彦, 西野 晋, 村上俊之, 山崎浩幸, 青山昌弘, 井口宗樹, 井坂アサ子, 岩船誠司, 大下敏明, 奥天貴史, 澤崎 武, 白井直裕, 進藤修一, 鈴木富美子, 脇田由喜, 黒沢康弘, 古井戸和彦, 林 則子, 八尾正博, 斉藤真秀, 在間淑美, 杉田真哉, 能勢祥弘, 羽田美和, 松下純一, 三原久則, 森谷和浩, 安部晴男, 安藤利光, 石井英雄, 石崎裕司, 一宮和喜, 稲田俊夫, 猪野真弓, 岩本真治, 氏家正美, 臼井重徳, 海老原一郎, 大熊正美, 岡村英和, 堅田裕之, 加藤康記, 唐沢健二, 川口浩美, 川嶋稔夫, 川瀬 眞, 北野正明, 貴田宗三郎, 楠瀬昌彦, 葛谷和明, 香妻輝昭, 国場幸政, 小郷直言, 斉藤鉄男, 佐々木聖, 佐々木博司, 佐藤 博, 澤山ゆかり, 塩崎博志, 嶋川優二, 下川隆司, 上見真人, 鷲崎誠司, 滝本正一郎, 田畑 亨, 中里 肇, 永井秀幸, 筈井隆史, 花崎 泉, 手澤洋一, 藤間貴久代, 古田公子, 松本敏郎, 松元亮治, 宮城盛仁, 森田浩明, 森本皓夫, 谷田部賢一, 谷内健一, 柳 孝二, 山崎一成, 山崎雅生, 山下幸彦, 山本研一, 山本茂義, 吉田篤正, 余田直之, 龍 忠光, 渡邊明子, 渡辺健次, 原山博文, 浜克己, 後藤奥志, 相澤清晴, 秋沢 充, 秋山忠志, 安藤 豊, 今井昭夫, 植草宏和, 上野浩一郎, 及川健, 大嶋高行, 大滝哲弘, 笠原孝保, 糟谷直大, 門野尊偏, 木村徹也, 黒川雅行, 黒田剛毅, グルー・フランスワ, 小谷 亮, 小林 篤, 小林弘樹, 近藤昭弘, 清水和幸, 白石正人, 白山久寿, 杉本恵俊, 諏訪正樹, 竹内正憲, 田中裕之, 辻 俊春, 辻 斉, 富塚英省, 中村吉宏, 長尾光之, 西澤貞次, 西永誠司, 西村治彦, 橋場秀夫, 濱田盛厚, 半田恵一, 平松美架, 福沢 正, 福本 聡, 別府良孝, 本多淳一, 真下太門, 増井誠生, 松尾 正, 松本隆男, 松山憲治, 丸典明, 溝上卓也, 山形武虎, 山田哲夫, 若見 昇, 藤田友之, 石井正信, 上河直之, 上田義文, 宇根本義信, 高木眞一, 立石康子, 田中 勝, 大道博夫, 福田浩, 三島敏嗣, 水谷嘉宏, 矢野直彦, 佐藤将夫, 中野幸生, 難波 電, 水谷美加, 安良岡フミ江, 池田功, 澤村和彦, 村井 孝, 高杉幸代, 内山 勇。

(以上 199 名)

【学生会員】 ターウォンマット・ラック, ASENS-OH KWADWO, 伊藤嘉邦, 岩井憲一, 上野裕紀, 大月知之, 大西正樹, 海谷治彦, 小松 靖, 近藤久, 佐々木貴康, 佐竹憲作, 澤井賢一, 敷田幹文, 島崎克也, 榎本周平, 高嶋恭裕, 高柳 浩, 館下直純, 田村健, 単 蘭娣, 淡海功二, 堤富士雄, 時森健夫, 中島秀一, 中村彰宏, 中山 健, 西岡真吾, 長谷川裕員, 東 清光, 平井賢仁, 松岡建城, 箕嶋 望, 望月紀寿, 山尾昭博, 山田智巳, 山室知久, 湯原信行, 脇敏一, 渡邊繁雄, 青柳雄大, 阿倍博信, 池永 剛, 遠藤健, 大庭良忠, 岡澤 宏, 川手史隆, 工藤礼子, 國島丈生, 古城大一, 佐川浩彦, 篠崎 功, 竹内昭伸, 鶴岡由希子, 中尾博司, 中島修二, 西山陽二, 前田靖, 南 弘征. (以上 59 名).

採 録 原 稿

情報処理学会論文誌

平成元年9月の論文誌編集委員会で採録された論文は次のとおりです(カッコ内は寄稿年月日).

- ▷黒住祥祐: ミニマックス線分近似と円弧近似 (63. 4. 27)
- ▷津村 宏: 問診型医療診断支援システムの開発 (63. 6. 22)
- ▷有馬 淳: 含意限定: 非単調推論による高次推論の一形式 (63. 10. 17)
- ▷佐伯元司, 蓬萊尚幸, 榎本 肇: 自然言語仕様からモジュール構造を得る手法について (63. 10. 24)
- ▷山本 彰, 坪井俊明, 北嶋弘行: 連続転送方式に基づくカートリッジ型 MT の先読み/まとめ書きスケジューリング・アルゴリズムとその性能解析 (63. 11. 10)
- ▷山口 泰, 木村文彦: CAD のための拘束条件モデリング環境 (63. 12. 5)
- ▷鈴木恵美子, 武田浩一: 日本語文書校正支援システムの設計と評価 (63. 12. 8)
- ▷沼倉 覚, 田中栄一, 青木晴海, 矢野目毅, 矢吹勉: 誤ったキーでも検索できる情報検索システム (63. 12. 26)
- ▷上原三八, 山本里枝子, 小川知也: LISP-PAL: プログラミング支援のための自然言語による質問応答システム (64. 1. 5)
- ▷海老原義彦, 中村奉夫: LAN 通信システムのポイントトゥーポイント平均応答時間の近似解析 (1. 1. 17)
- ▷佐藤嘉伸, 田村進一: パラメータ化モデルを用いた三次元物体認識: Hopfield モデルによる並列探索アプローチ (1. 2. 13)
- ▷末永 正, 藤村直美, 牛島和夫: ファイル管理テーブル VTOC のアクセス方式がシステム性能に及ぼ

す影響

(1. 2. 20)

- ▷野田松太郎, 泉田正則, 越智正明: 一般逆行列の数式処理システムによる直接解法とその評価 (1. 2. 21)
- ▷中井 孝, 丸谷洋二: CT 画像に基づく三次元樹脂モデルの作成 (1. 2. 27)
- ▷山足公也, 三浦修一, 川端 敦, 瀧 勇次, 谷藤真也: 高品位日本語文字高速出力方式 (1. 3. 15)
- ▷井沢伸芳: 3 段階ゲート構成による M-out-of-N 符号用自己検査回路 (1. 3. 16)
- ▷原田耕一: 3 次スプライン補間のためのデータ選択の一手法 (1. 3. 22)
- ▷鳥居達生, 孫 春蘭: 高橋, 森の数値積分理論の FFT による実現 (1. 4. 4)
- ▷桃井貞美, 福井幸男: ワイヤフレームからソリッドへの一変換手法 (1. 4. 5)
- ▷鶴飼正行, 津田孝夫: 陽的差分による 3 次元電磁流体力シミュレーションのスーパーコンピューティング (1. 4. 14)
- ▷斉藤 剛, 穂坂 術: 拡張した 2 次有理 Bezier 曲線を用いた曲線近似法—2 次有理 Bezier 曲線の拡張と近似法— (1. 5. 8)
- ▷横山孝典, 佐塚秀人: 制約に基づくオブジェクト指向知識表現システム (1. 5. 11)
- ▷小島啓二, 鳥居俊一, 吉住誠一: ベクトル型データベースプロセッサ IDP (1. 5. 22)
- <ショートノート>
- ▷海老原義彦, 中村奉夫, 楊 林: 高速 LAN 通信システムの平均応答時間の近似評価 (1. 3. 22)
- ▷五十嵐正夫: 代数方程式の大域的解法の初期値に対する一注意 (1. 4. 11)
- Journal of Information Processing**
- 平成元年9月の欧文誌編集委員会で採録された論文は次のとおりです(カッコ内は寄稿年月日).
- ▷Yuh-Jiun Chen, Wei-Pang Yang: A Mechanism for Concurrency Control in a Coupled Knowledge Base Management System (63. 1. 25)
- ▷候 本慧, 富樫 敦, 野口正一: A Partial Translation of Default Logic to Circumscription (63. 10. 31)
- ▷佐々木建昭, 竹島 卓: A Modular Method for Gröbner-basis Construction over $\mathbb{Q}$ Solving System of Algebraic Equations (63. 10. 31)
- ▷杉原厚吉, 伊理正夫: A Solid Modelling System Free From Topological Inconsistency (63. 12. 5)
- ▷佐々木建昭, 佐々木睦子: Analysis of Accuracy Decreasing in Polynomial Remainder Sequence with Floating-point Number Coefficients (1. 3. 27)
- ▷Evan Tick: A Performance Comparison of

Shared-Memory OR- and AND-Parallel Logic
Programming Architectures for a Common Bench-
mark (1. 5. 19)

▷Martin Nilsson, 田中英彦: On MIMD Execution
by SIMD Computers (1. 6. 2)

事務局だより——学会 30 年のあゆみ, 事務所の変遷

情報処理学会が呱呱の声をあげたのは昭和 35 年で、ソフトウェアとかハードウェアという言葉がまだ世の中にあまり浸透していないときであった。

創立総会后、学会の事務所は当時の港区芝西久保邑町の市町村会館別館（今の虎の門 3 丁目、竊絵小学校の前にあったが、現在建物はなく駐車場になっている。）にあった。あったというより日本電子工業振興協会（電子協）の一隅を拝借して開店した。

昭和 39 年、家主の電子協が港区芝琴平町の船舶振興ビルへ移ったためそれについて移転し、昭和 41 年再び現在の機械振興会館へ移ったので、また移転した。

その後、学会の財政基盤も固まったので、昭和 49 年、部屋住みから独立し事務所を同会館の 3 階に構えた。

昭和 61 年、20 年間住み慣れた機械振興会館も職員 20 名を越し手狭になり、ここを分室として、本部は直ぐそばの保科ビルへ引っ越し、現在に至っている。しかし、会員数の伸びが順調で、ここ数年でこの事務所もパンクする恐れがあり、会員皆さまの利便を更に図るためにも、より活動しやすい場所に移る必要がある。

